

第一九回 幻住庵俳句コンクール

審査結果 令和六年五月 幻住庵保勝会

選者 滋賀 恵美子

特選 山門といふ春風の出入口

神奈川県横浜市 谷元 博樹

【評】 山門を吹き抜ける風に、日常生活を感じられたのでしよう。すばらしい観察力です。春風から慣れない新生活に翻弄されても、意欲的に立ち向かう姿と、また出入口で想像が広がりました。元気をもらおう一句です。

入選 気まぐれな気温に惑ふ春シヨール

撰津市南千里丘五 河野 善江

入選 すみれ咲く滅の城の石垣に

草津市若草三 井上 次雄

入選 聞き流すことも大事や菜種梅雨

大津市里六 宮崎 正子

佳作 山門の朽ちし阿吽や冬深む

大津市田辺町 山田 和義

佳作 廃線の壊れしベンチ下萌ゆる

大津市石山寺三 小野 寛

佳作 振つて見て頼り無き音花の種

草津市若草三 井上 次雄

佳作 からごとく故郷の音や種袋

大津市里六 宮崎 正子

佳作 桜東風柱時計もコチコチと

大津市大萱 松田 和子

撰者 小林 紀夫(大津市俳句連盟)

特選 ブルーシート屋根に居座る寒さかな

大津市柳川一 圓井 公子

【評】 能登地震で復興が遅れており、屋根にブルーシートの掛けられたままの風景が散見される。能登の春は遅いかにも寒そうな景だ。居座ると表現する事で、寒さだけでなく復興の遅れの無念さまで伝わってくる。

入選 山門といふ春風の出入口

神奈川県横浜市 谷元 博樹

入選 路地裏の時計修理屋梅一輪

栗東市中沢二 葛城 巖

入選 螢鳥賊青く光りて地震の海

撰津市南千里丘五 河野 善江

佳作 「廻つせ廻せ」雄叫び赤き左義長祭

和歌山県海南市 林 公子

佳作 小石投げ小さき春の波紋かな

大津市松本二 松田 翔

佳作 囀りの中におはすや式部像

茨城県那珂市 松井 節子

佳作 囀の山のふくれる幻住庵

高槻市高垣町 四方 よね子

佳作 能登よりの風が運びし涅槃雪

大津市里六 宮崎 正子

選者 山田 鳴子(日本伝統俳句協会)

特選 足湯して近江の春を惜しみけり

草津市若草三 井上 次雄

【評】 春になって畑仕事や花見など旅行に出ることも増えて来る。足湯に浸りのんびりと景色を眺め一日の疲れを癒す。まだ少し寒い日もある春の足湯だからその「春惜しむ」の季節が活きてくる。

入選 草の影曳いては野火の立ちあがる

草津市若草三 井上 次雄

入選 絵巻物ごとく流るる花の帯

大津市里六 宮崎 正子

入選 糸張つて蜘蛛の動きのとまりけり

大津市栄二 森本 和子

佳作 庭先に雀の声や春障子

大津市柳川一 圓井 公子

佳作 福の豆受け止めやすき帽子かな

大津市柳川一 圓井 公子

佳作 湖暮れてなほ空青し花辛夷

草津市若草三 井上 次雄

佳作 兄らは皆お尻濡らして潮干狩

草津市若草三 井上 次雄

佳作 玉筋魚炊く匂ひ漂ふ家並かな

大津市稲津三 加集 正尊

撰者 志村 宣子(現代俳句協会)

特選 絵巻物ごとく流るる花の帯

大津市里六 宮崎 正子

【評】 「光る君」のドラマで石山寺が有名になった。主人公光源氏の恋愛を通して当時の社会や政治の様子等を紫式部が描いている。瀬田川に花筏が風に吹き寄せられ花の帯として流れていく。雅やかな源氏の絵図の様に。

入選 山門といふ春風の出入口

神奈川県横浜市 谷元 博樹

入選 花水木咲き新しき町内会

宇治市小倉町 伊豆 益一

入選 壁紙に源氏の絵図や蛭汁

大津市松本二 松田 翔

佳作 酒好きの酒呑むための花見かな

大津市石山寺三 小野 寛

佳作 山門の朽ちし阿吽や冬深む

大津市田辺町 山田 和義

佳作 囀りの中におはすや式部像

茨城県那珂市 松井 節子

佳作 湖暮れてなほ空青し花辛夷

草津市若草三 井上 次雄

佳作 蘊畜を聞くも介護や囀れり

大津市里六 宮崎 正子

撰者 馬場民代(幻住庵保勝会)

特撰 鼓無く構へよらしき難かな

草津市若草三 井上 次雄

【評】 作者の繊細、独自の視点が新鮮。古い難への深い愛着と共に、言い様の無き喪失感も漂う。形あるものが少しづつ滅びを見せ始めるも、なお凛々しき囀り難の姿が切なく胸に残る。

入選 老姉妹昔を語る難の前

大津市柳川一 丸岡 佐代子

入選 囀の山のふくれる幻住庵

高槻市高垣町 四方 よね子

入選 路地裏の時計修理屋梅一輪

栗東市中沢二 葛城 巖

佳作 筆箱にひそむ土筆の二三本
大津市別保二 田中 文子

佳作 網走の古き獄舎の草萌えて
大津市石山寺三 小野 寛

佳作 早春や扉重たき尼僧院
大津市稲津三 加集 正尊

佳作 「ようこそ」と言ふかに枝垂桜かな
摂津市南千里丘五 河野 善江

佳作 春暁や夢と現をさまよへり
大津市栄二 森本 和子

【選外佳作】

撰者 滋賀 恵美子

ブルーシート屋根に居座る寒さかな

大津市柳川一 圓井 公子

路地裏の時計修理屋梅一輪

栗東市中沢二 葛城 巖

霧の窓不意に掠めるつばくらめ

大津市栄二 森本 和子

撰者

山田 鳴子（日本伝統俳句連盟）

花ミモザ二階の人に笑釈して

大津市光が丘一 大槻 幸恵

眼の合いて金魚と話す暮しかな

大津市柳川一 丸岡 正男

独り居は一日ぶつ冬くれる

大津市朝日ヶ丘一 澤木 洋子

蘊畜を聞くも介護や囀れり

大津市里六 宮崎 正子

撰者

志村 宣子（現代俳句協会）

その中の一羽が空へ花曇

高槻市高垣町 四方 よね子

石鹼玉消えて足跡残りをり

大津市別保二 田中 文子

一汁の温きが嬉し春料理

横浜市南区 谷元 博樹

蛍鳥賊青く光りて地震の海

摂津市南千里丘五 河野 善江

石山の紅梅感じるミレニアム

松戸市古ヶ崎 澤田 俊

福の豆受け止めやすき帽子かな

大津市柳川一 圓井 公子

撰者

馬場 民代（幻住庵保勝会）

立春や賑わっており艇庫前

大津市光が丘一 大槻 幸恵

赤ん坊の大きな欠伸春を待つ

大津市柳川一 圓井 公子

春風や古山でひとつくしやみかな

津島市唐臼油田 鈴木 予始子

花水木咲き新しき町内会

宇治市小倉町 伊豆 益一

【選外佳作数 一七句】
【今回投句数 二二七句】

